

平成29年度第2学期始業式辞要旨

平成29年9月1日（金）

こうして大きな問題もなく夏休みを終え、2学期を迎えられたことを喜びたい。

この夏休みの間に、色々な経験をしていただろうか。一生の思い出になることがあったらどうか。

7月の終わりにはドイツの高校生が本校に来てくれて部活動の生徒諸君と交流できた。素晴らしい経験が出来たのではないだろうか。ホームステイを受けてくれたご家庭には心から感謝している。

それでは、今日は、夏休みの間に私が体験したことの中からお話しをしたい。

私は岡山県高等学校体育連盟の副会長をしているので、7月末から8月初旬にかけて南東北インターハイへ激励に出掛けてきた。山形県を中心に宮城県と福島県の3県で開催されたが、私は宮城県開催種目を応援してきた。

8月初旬の東北は例年になく気温が上がらず、最高が摂氏26度程度、最低が摂氏20度以下だったので非常に過ごしやすく、岡山に帰りたくなかった。

宮城県では、女子サッカーの作陽高校が勝つ試合を気持ちよく応援できた。そして気仙沼ではフェンシングで優勝した大安寺中等教育学校の増田選手、登米市のボート会場では優勝した備前緑陽高校のダブルスカル、3位になった関西高校の4人で漕ぐクオドルプルなどの応援が出来た。

来年度は玉島商業からも是非ともインターハイに出場して欲しい。

私としては、6年前の東日本大震災以来、被災地を訪ねるのは初めてだったので、どの程度復興しているかが気になっていた。実際に大被害を受けた気仙沼港を訪ねてみたが、大きなコンクリート製の建物は残っているものの、一般の住宅や商店が流されたあとは何もない更地になっており、被害の大きさが尋常ではなかったことが一目で理解できた。そういう中でも住民の方々は復興を進められているようだったが、そこかしこに仮設住宅が残っており、復興はまだまだ道半ばということを感じた。

3泊のうち、仙台市に1泊したときに強く感じたことを君たちにお話しする。

仙台は100万都市なので大きな街だ。私たちは都会のど真ん中の賑やかな場所にあるホテルに泊まった。私は県外に泊まる時は、運動不足の解消と街を知ることがを目的にジョギングするようにしている。そのジョギングしている中で強く感じたことが、仙台の人たちは信号をよく守ると言うことだ。仙台の街はやたらと信号が多い街で、小さな交差点にもほぼ総てに信号があって、ジョギングしていても止まるばかりしなければならない街だ。しかし、どんな小さな交差点であっても、かつ全く車が来なくても信号無視をする人は一人もいなかった。これが岡山なら、どんどん渡っていきだろかなと思いつつ、私も一緒に待った。

6年前の東日本大震災の際、被災者たちが配給される食べ物や生活必需品をもらうために整然と列を作って静かに順番を待っている姿が世界中から驚嘆の目で見られ、日本人のモラルの高さ、民度の高さが賞賛されたことを思い出す。

どんなに小さな交差点であっても、いくら車が来なくても、誰一人信号を無視する人がいないことは、大震災以前からなのか以降なのか分からないが、あの大変な大災害を経験した仙台の方々は、「自分さえ良ければよい」とか「自分一人ぐらいいいじゃないか」という考え方がいかに社会全体の秩序を乱していくかを知っているのではないかと強く感じた。私たちは報道を通してしか知らないが、大きな被害を受けた方々が助け合っていく中から学んだことは、「ルールを守る」・「マナーを守る」ことが社会全体にとってどれほど大切であるかということではなかったの

かと直感的に感じた。

私は毎日、岡山東商業の近くの自宅から、路面電車とJRを乗り継いで通勤しているが、岡山駅前につくといやだなあと思う光景を見かける。路面電車を降りると信号のある横断歩道があるが、皆さんが信号を待っているのに、車が来ていなければ信号無視して渡る大人がいる。毎日のようにそうする人も知っている。もし、この人と仕事などで付き合いなければならなくなったら、絶対にその人を信用することは出来ない。その人は、「三方良し」にたとえると、きっと「売り手良し」だけで、「買い手良し」や、ましてや「世間良し」など考えもしない人だと思う。

たくさんの方が信号が変わるのを待っている中で、堂々と信号を無視していく人だから、誰も見ていないところではとんでもないことでも平気でやるのだろう。私が子どもの頃には、「お天道様が見ているよ」とよく言われたものだ。誰も見ていなくても悪いことをしてはいけないよと言う教えであった。

大災害に見舞われた仙台では、その教えが生きているのに、災害のないこの岡山では失われてしまったのではないのか、岡山が大災害に見舞われたら配給される食べ物を奪い合うのではないかと心配だ。

6月の終わり頃、他校の校長先生たちと一緒に岡山県警察学校の視察に行った。その際に警察学校長が言われた言葉が印象に残っている。「この学校にいる間に、真夜中に信号のある小さな交差点で、全く車が来ていないときでも、じっと信号を守る人間に変えていくのだ」

たかが信号無視と言うなかれである。

話しは全く変わる。

8月の後半に、全員の先生方と一人一人面談した。一学期の反省をした上で2学期に向けて良いスタートを切るためのものだ。

その中で先生方に、定期考査の問題の中に、自分の意見を根拠を持って述べるような設問を一つでも二つでもいいから入れて欲しいとお願いした。

これから君たちが生きていく世の中では、いくら知識が豊富であっても、自分の意見がきちんと言えない人は活躍の場がなくなるとよく聞く。今まで何度も言ってきたが、自分で課題に気付き、それをどうやったら解決できるかを自分で考えられる人を世の中は求めている。

だから玉島商業は、総ての教育活動をとおして君たちにそういう力が身につく訓練をしていきたい。自分の意見を求められたときに、すぐに「わかりません」と言って考えることを放棄している人は重傷だ。まずは、悩んでみてほしい。そして今までに身につけた知識や技能、経験を総動員して自分なりのオリジナルな意見をまとめる努力をしてもらいたい。その努力や挑戦が、必ずや君たちの将来を幸せにすると信じたい。

いよいよ3年生は、16日から就職試験が始まる。残された時間はそれほど多くない。しっかり準備して、「これだけ準備したのだから、どこからでも来い」という自信をもって試験に臨んでもらいたい。

また、進学希望の諸君も、次から次へと試験がやってくる。後悔することがないよう精一杯の努力を期待する。

また、F祭も近づいた。こういった行事をやる時に、何もかも上手く進むと思ったら大間違いである。意見の相違や不満から、ぶつかり合うことも多いだろう。しかし、それを何とか解決して前に進むという経験が大切なのだ。「雨降って地固まる」という諺があるように、思うように行かないときはぐっと我慢して、前に進んでほしい。

それでは、2学期が充実したものになることを祈念して話しを終わる。